

コード No. 10353

**Anti-Human  
Tie-1 (9C1) Mouse IgG MoAb**

容量 : 100 µg

**はじめに** : TIE は慢性骨髄性白血病由来細胞株である K562 からクローニングされた新しい受容体型チロシンキナーゼです。その分子量は 117kDa で、構造は細胞外 N 末端から免疫グロブリン様ドメイン、3つの EGF 様ドメイン、もう 1つの免疫グロブリン様ドメイン、さらに 3つのフィブロネクチンⅢ様ドメインと続き、膜貫通ドメイン、2つのチロシンキナーゼドメイン、そしてC末端ドメインから構成されています。またキナーゼドメインにおいて約 80%と高いホモロジーを有する Tek 分子のクローニングも報告されており、これらは Tie ファミリーを構成すると考えられています。Tie-1 は内皮細胞に特異的に発現し、Tie-2 と共に Tie ファミリーに属します。Tie-1 の遺伝子のノックアウトマウスでは、ホモ接合体 (-/-)において、血管は形成されるものの易出血性のため、肺水腫で死亡します。このことから、Tie-1 を介したシグナルは血管構造を維持する上で重要であると報告されています。  
本モノクローナル抗体は、ウエスタン ブロットィング、免疫沈降試験により、Tie-1 を認識し、Tie-1 発現細胞に対する FACS 解析も可能です。

**免疫抗原** : Human Tie-1 の細胞外領域のリコンビナントタンパク質

**起源** : マウス×マウス ハイブリドーマ (培養上清)  
(X63 – Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)

**クローン名** : 9C1

**サブクラス** : IgG<sub>2a</sub>

**精製方法** : 抗原特異精製

**包装形態** : 1 % BSA, 0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

**再生方法** : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)

**保存方法及び安定性** : 2~8 °C 保存 5 年間安定  
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

**使用目的及び使用方法** : ウエスタン・ブロットィング 1~5 µg/mL にて使用可能  
免疫沈降法 3~5 µg/test にて使用可能  
FACS 解析 0.1~0.5 µg (1×10<sup>5</sup> Cells あたり)にて使用可能

**特異性** : HEL 細胞(白血病細胞株)を用いたウエスタン・ブロットィングで特異性を確認